



八面山より（左側滑床山）

かざね
四万十の風音
 しんせん
森 & 川だより



四万十川の春

松野南小学校で森林教室を開催

「わくわくの森」で森林教室

1 2 月 1 9 日、愛媛森林管理署と愛媛県松野町立松野南小学校が協定を結んでいる目黒山国有林の「遊々の森・わくわくの森」で、同校の児童を対象に森林教室を開催しました。

宇和島首席森林官からは、森林のはたらきと大切さを、当センター所長からは滑床山周辺のシカ被害について話しました。

また、昨年春に児童たちが植樹したヤマザクラを観察しました。児童たちが「わくわくの森」に植えたヤマザクラの成長の様子を知るとともに、滑床の自然や森林の仕組みを学習する機会になりました。



シカ被害についての説明に聴き入る児童にしがほう

西ヶ方小学校で木工教室を開催

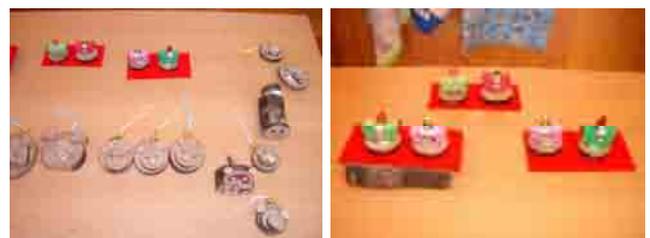
1 月 1 4 日、高知県四万十市立西ヶ方小学校全校児童 1 8 名を対象に木工教室を開催しました。

木工教室を始める前に「森林からのおくりもの」と題した紙芝居を使って、森林の働きなどを説明すると、児童は熱心に聴き入っていました。

また、途中では矢継ぎ早の質問も出て、講師も返答するのに大変な場面もありました。木工では、低学年はキーホルダーなどの小物、高学年はタヌキやおひな様を選び、それぞれ助け合いながら無我夢中になって作製していました。



夢中で作製する児童たち



見事な作品です おひな様・完ぺき！

弘見小学校で森林教室を開催

この木変な木？初めて観る樹木に感嘆

1 月 1 6 日、高知県大月町立弘見小学校 5 年生 2 4 名を対象に、足摺垂熱帯自然植物園（高知県土佐清水市）で、総合学習の一環としての植物教室を行いました。

これは地域の自然を学習し、自然環境にも関心を深めることを目的に実施したもので、園内では、整備された遊歩道を歩きな

がら植物を観察したり、当センターの職員が樹木等の特徴などを解りやすく説明しました。ショウベンノキ、バクチノキなど普段身近で見られない樹木や、ゴクラクチョウカなど初めて観る植物に、「ヘー、おかしな名前、変わった植物」とか、アコウは、別名「絞殺木」と言われ、他の樹木を絞め殺し成長することを説明すると、一同に「恐ろしい、怖い木だー」などビックリした様子でした。

先生からは「身近にこのような植物園があることは知りませんでした。珍しい植物を観察でき子供共々感動しました。普段見られない亜熱帯植物の観察は有意義で思い出深いものとなりました」との感想が寄せられました。



メモを取り熱心に聴き入る児童たち

平成20年度四国森林・林業研究発表会で成果を発表

1月22日、23日に四国森林管理局で開催した「平成20年度四国森林・林業研究発表会」において、「滑床山国有林シカ食害地の植生回復への取組み」を石黒自然再生指導官が発表しました。

愛媛県と高知県の県境近くに位置する滑床山なめとこやま（別称三本杭さんぼんぐい、1,226 m）では、平成12年頃から山頂のササ原や周辺の天然林で、植生の衰退や消失が進み、裸地化が目立つようになりました。調査の結果、主な原因はシカによる食害であり、既に表土の流亡や天然林の枯損が進み、極めて深刻な状況にあることが判明し、その対策としての防護ネットの設置、ササの移植等の植生回復の取組の報告をしました。



発表する石黒自然再生指導官

植生回復の取組み位置図



平成元年頃の滑床山頂 平成18年頃の山頂

消失する前の山頂周辺の原植生は「ミヤコザサ」でシカ食害により最近10年ほどで衰退、消失しました。当センターではシカ防護ネットを設置し、ミヤコザサの移植（ボランティア参加）を行い、植生回復を図っています。



シカ防護ネット ミヤコザサの移植



平成20年11月現在、ネット内においては、ミヤコザサや生き残りのヒカゲノカズラなどが繁殖し、拡がりを見せています。

防護ネットでシカを排除することによる植生回復に対する効果は顕著であり、またササの移植によりその回復を速めることも可能であることが示されたと考えます。

当センターでは、今後もこれまでの取り組みを継続し、ミヤコザサに覆われた滑床山の再生に向けて積極的に取り組む考えです。

サニーマートで木工教室を開催

四万十マイバッグ運動に一役

2月1日から、高知県四万十市内（旧中村市）の大型量販店など4店で、レジ袋の有料化がスタートしました。

「四万十マイバッグ運動開始式典」が行われた1日、地元スーパー「サニーマート四万十店」では、関連行事として木工教室が開かれ、当センター職員らが指導に当たりました。

当日は、開店と同時にマイバッグ持参の家族連れで賑わい、木工教室も好評で、40組約100名の親子が、端材を活用した木工クラフトを体験しました。

そして、仲良く動物の携帯ストラップや立体作品、おひな様を完成させ、大事そうに持ち帰っていました。

環境保全活動としてのマイバッグ運動の推進に、再生可能な資源であり、環境材料としての木材が一役買う木工教室となりました。



夢中になって木工クラフトをする親子

松野南小学校で木工教室を開催

地域の人に感謝を込めて

2月3日、愛媛県松野町立松野南小学校全校児童12名を対象に木工教室を開催しました。

2月末に同校で開かれる「ありがとう集会」（感謝祭）でこの1年間お世話になった地域の方々にプレゼントする動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を児童たちに指導しました。

児童たちは、昨年11月にも作品作りを体験していること、今回は当センターにおいてパーツをある程度加工して学校に持って行ったこともあり、スムーズに作っていました。

上級生が下級生に教えたり、手伝ったりして約1時間で目標の60個が完成しました。今回の木工教室は、木材への関心を高めることは勿論、児童たちの連帯意識を高める良い機会になったのではと考えています。



熱心に木工に取り組む児童と先生

弘見小学校でシイタケ駒打ち体験

シイタケ早く出てこないかな？

2月5日、高知県大月町立弘見小学校3～5年生71名を対象に山の学習としてシイタケ栽培体験を指導しました。

子ども達には、「きのこ」は好き・嫌い？から始まり、「きのこ」の種類、「きのこ」の迷信についてのクイズ、そしてみんなで「きのこの唄」を歌っておおいに盛り上がったところで駒打ち作業に入りました。

児童たちは手際よく種駒を「ほだ木」の穴の中に入れて槌で打ち込んでいき、アツという間に完了です。長さ30cm位の「ほだ木」はそれぞれが家に持ち帰り、シイタケが生えるまで観察し、1mの「ほだ木」は学校で観察することにしてあります。昨年実施した現6年生の4名からシイタケが出ている報告を聞いており、可愛いシイタケが顔を出すまでは少し日数がかかりますが、「森からの贈り物」を楽しみに待つことでしょう。



初めての駒打ち作業に夢中

木)や自然環境の学習を併せた森林教室を実施しました。

絵や文字を書き込んだ樹木名板は、前もって児童たちが学校で作製しており、当日は4班に分かれ、各班が一本ごとに樹木の名前や由来、特徴などを学習しながら取り付けて行きました。

児童たちは、「板に絵や文字を書くことや直接、木に触れて取り付けることをしながら学習することができて、自然や森林(樹木)の大切さなどが良く解りました。楽しかったです」、「今日の学習は家族に話します。そして家族と一緒にここに来たいです」と言っていました。

境内では普段にない児童たちの賑わいさぞ神様も喜んだことと思います。



職員による樹木の説明

四万十川沈下橋シリーズ



屋内大橋(くちやない) 左下流



同(上流から撮影)右奥は黒尊

喜多小学校の児童で樹木名板取付

樹木の名前も解り神様も喜ぶ

3月9日(月)、愛媛県大洲市立喜多小学校4年生98名を対象に、地元の「少彦名神社」において、境内の樹木に児童が作製した樹木名板の取り付けを行い、森林(樹

林野庁 四万十川森林環境保全ふれあいセンター

TEL0880-31-6030 / FAX0880-31-6031

〒787-1601 高知県四万十市西土佐江川崎2405番地